

呑川最上流部に浜島「イソシギ」訪問

皆さん、お久しぶりです。

この1ヶ月の間に行政の方々とは、「当面の呑川改修日程」「36 答申と清流復活事業について」

「高濃度酸素処理水による水質改善実験結果」などが話し合われ、私たちの行事としては「エコフェスタ in 小池小学校」「動力船による呑川 watching」が行われ、現在「呑川写真展」「呑川洗足池さくら walk」などの準備作業が進められています。

同時に、家業の青色申告（絵本の店・星の子）や確定申告などもあり「呑川レポート」はしばらく時間が空いてしまいました。

報告したいことはいっぱいありますが、少しでも写真レポートの形になるまで、お待ちいただければと思います。

速報としては、会報「のみがわ」最新号が発行されましたので、それをご覧ください。さて「呑川写真展」（3/24-3/25）の作品募集が行われ、今までのような写真の撮り方でなく、

「呑川の魅力」というか、「川の魅力」を意識した写真を撮ろうと、私も悩みました。

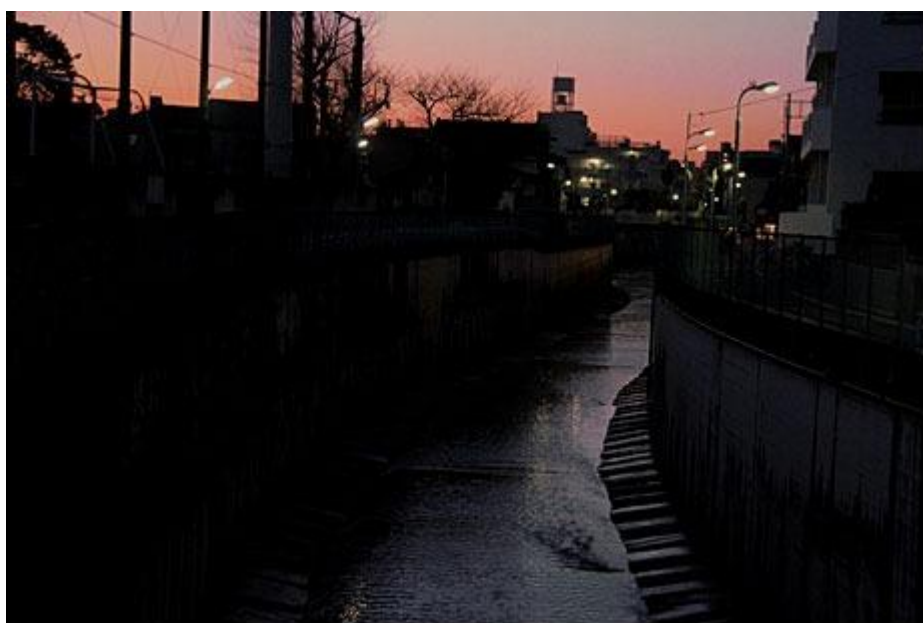
「川」といえば、人は川をのぞき込んで、まず流れている「水」を見ます。

そこで、その「水」をどう表現するか悩みました。

水の「流れ」もありますが、まずは水の「色」です。

夕焼けの「呑川」を狙ってみました。どうも騒がしい雰囲気、静寂さや清涼さがありません。

そこで、無理をして夜明けに飛び起きて「呑川」に出ました。



まだ明けやらぬ空は赤く、夕方と違って静寂さに満ちています。
ところが、この朝焼けの色が、川面にきれいに反射して見える場所は
あちこち動いてみましたがなかなかありません。



やっとの思いで、オナガガモが首を突っ込んで藻を食べている場面に出会いました。
朝の静寂さの中で、音も立てず、静かに黙々と食事をしています。
水面の色は朝早い空の暗さが青く写り、朝焼けの赤い色もよく反射して、
ため息の出るような美しさでした。
人知れず、静かな、静かなオナガガモの営みは、見るものの気持ちに染み入って
くるのです。

(写真では、その雰囲気や色は、あまりきれいに出ないのですが・・・)
しばらく、ぼーっと見ていると・・・



オナガガモは一休みなのでしょう、川の中から出て、岸边沿いでくつろいでいます。彼らもまた、朝焼けの赤い水面の色を楽しんでいるように見えます。4羽のそれぞれが、思い思いの振る舞いと表情を見せ、見ている私もゆったりとしてしまいます。

まだ明けやらぬ暗い朝も、いいもんだなあ・・・と感じます。

でも、我ながら気がついたことがあります。

どうしても「川の魅力」を表現したくて、「川面の色」をどう表現するかにとらわれ、カモたちをキチンと観察していないことに気がつきました。

つまり「川面の色」を表現するのが中心で、退屈な写真にならないようにカモは添え物にしているだけなのです。そんな自分に気がついて、早朝の呑川から帰り、朝食をとってまた出直しをしました。



ここは工大橋付近ですが、たくさんのカモたちが集まっています。



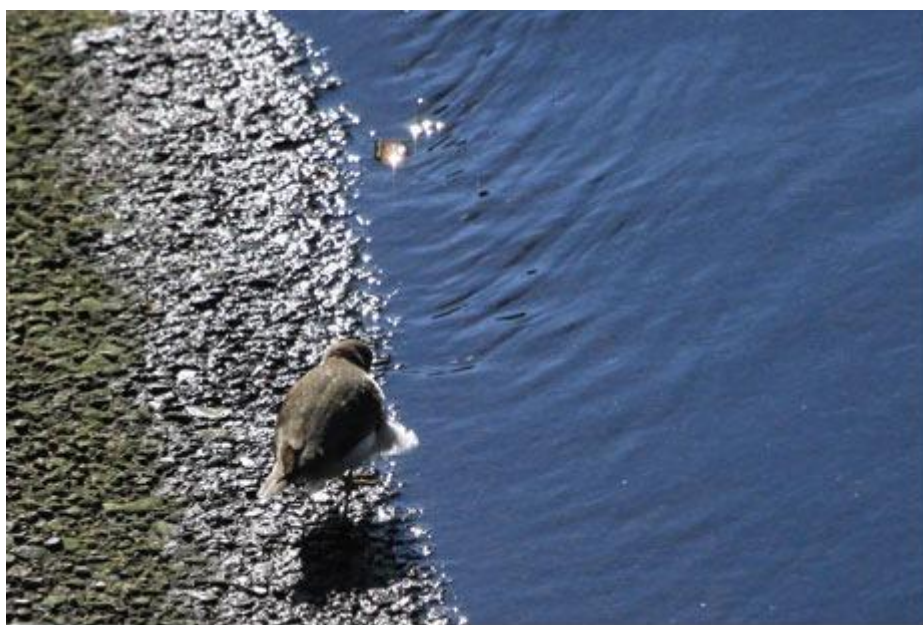
ほとんどオナガガモで、いつもみているので「ああ、いつもの・・・」と流して見えていました。

(やはり、昼の明るい写真より、明け方の暗い方が、情緒はありますね)でも早朝に、川面の色にとらわれすぎていたことを思い出し、少していねいにカモたちを観察しようという気になりました。

そして、なめるようにカモたちを追ってみると・・・

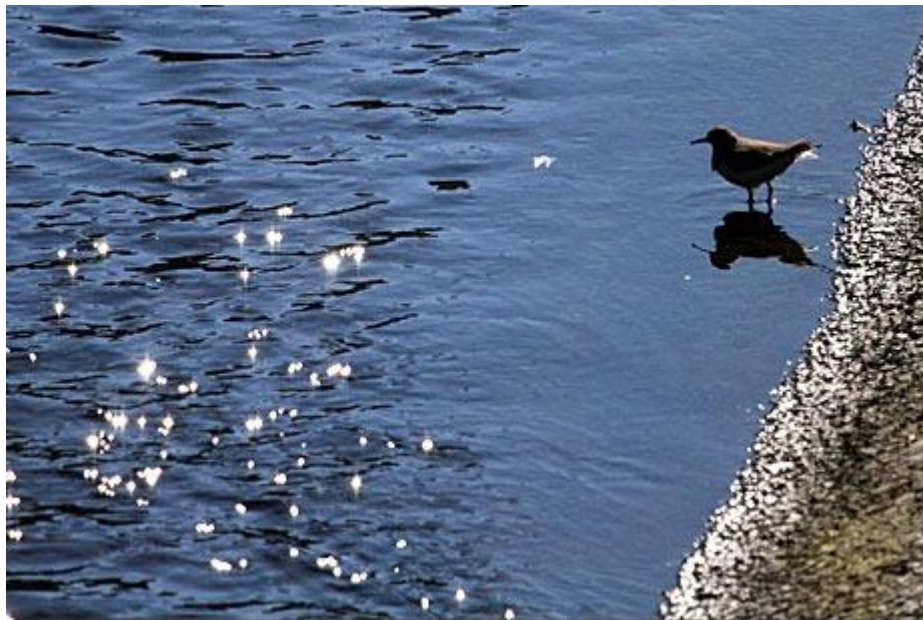


なんとオナガガモに混じって、いつもは見かけない小さな鳥を見つけました。羽根の色から、一瞬、ハクセキレイの幼鳥かと思いました。



でも、ハクセキレイと違って、尾が長く伸びていません・・・
いったいこの鳥はどんな鳥なのでしょう。

しかし、鳥の正面に回るとは危険です。
鳥に気がつかれてしまえば、パッと逃げられてしまいます。
今まで、そういう悔しい場面になんども出逢っているからです。



こういう時は、じっと待つて鳥が向きを変える瞬間を待つしかありません。
これは逆光で、鳥の姿は真っ黒、その模様は判りません。



この鳥は水浴びを始めました。
向こうに見えるのは、尾が長く伸びているハクセキレイです。
サイズはほとんど変わらない感じです。



水浴びが終わって、この鳥は呑川の岸辺を歩き始めました。
この様子からすると「シギチ」（シギやチドリの仲間）のような感じがしてきました。



そしてなんと、この鳥はヒョイと横を向いてくれたのです。

やはり、「シギチ」の仲間で「イソシギ」です。

今まで、呑川河口付近で何回か見たことはありますが、ここ最上流で見られたのは初めてです。



盛んに何か突っついてます。
昆虫やゴカイなどタンパク源を食べているのでしょう。



たくさんのオナガガモがいる間に混じって、われ関せず、盛んに採餌をしています。

そして、ついに・・・・・・・・



私の見やすい場所に移動してくれたのです。

これは明らかに「**イソシギ**」です。

辛抱強く待った甲斐がありました。

でも、やはりこの「**イソシギ**」には、こちらを気がつかれてしまいました。



くるっと背を向けスタコラサッサ・・・すぐに飛んで逃げてしまいました。

たくさん撮影した中で、「**イソシギ**」の模様がハッキリ写ったのは、先の1枚だけでした。

「明け方」から「朝食後」にわたる撮影を終えて、やはり感じたのは

「二兎を追ってはいけない」ということでした。
もし「川の魅力」を表現しようと、水面の水の色に気を遣ってばかりいたら、
やはり野鳥をていねいに見ず、「イソシギ」には気がつかなかったかもしれません。

さいわい「呑川の会」には写真が好きな方はたくさんいて、「川の魅力」を
伝えてくれています。
私は二兎を追わず、今後とも、野鳥をていねいに追うことを外さないように
しようと思いました。
(それにしても、朝焼けの呑川はとてもきれいでした・・・)

(当面の日程)

2012/3/24-3/25 「呑川写真展」大田区産業プラザ (PIO) 2階
観光・産業情報コーナーにて

2012/3/24 13:30-14:30 呑川写真展応募者の集い
自分の写真を前にして、その写真のエピソードや
呑川への思いを語っていただきます。

2012/3/25 まちめぐりガイド付き「大田のさくらウォーク」
「呑川・洗足池コース」9:30 石川台駅集合

2012/4/2 東京大学生産技術研究所「呑川ウォーク」

2012/4/7 恒例・お花見ウォーク (石神井川ウォーキング)

2012/4/12 呑川ネット定例会 10:00 (生活センター)

2012/4/21 呑川の会・定例会

——photo&essay by——

高橋 光夫

〒145-0061 東京都大田区石川町1-26-8

(tel) 03-3727-8419 (fax) 03-3727-8505

(mail) mitsuo.takahashi@nifty.com
